

# DCを核とした地域の活性化

---

地域から起こるAIイノベーション

2026年1月13日



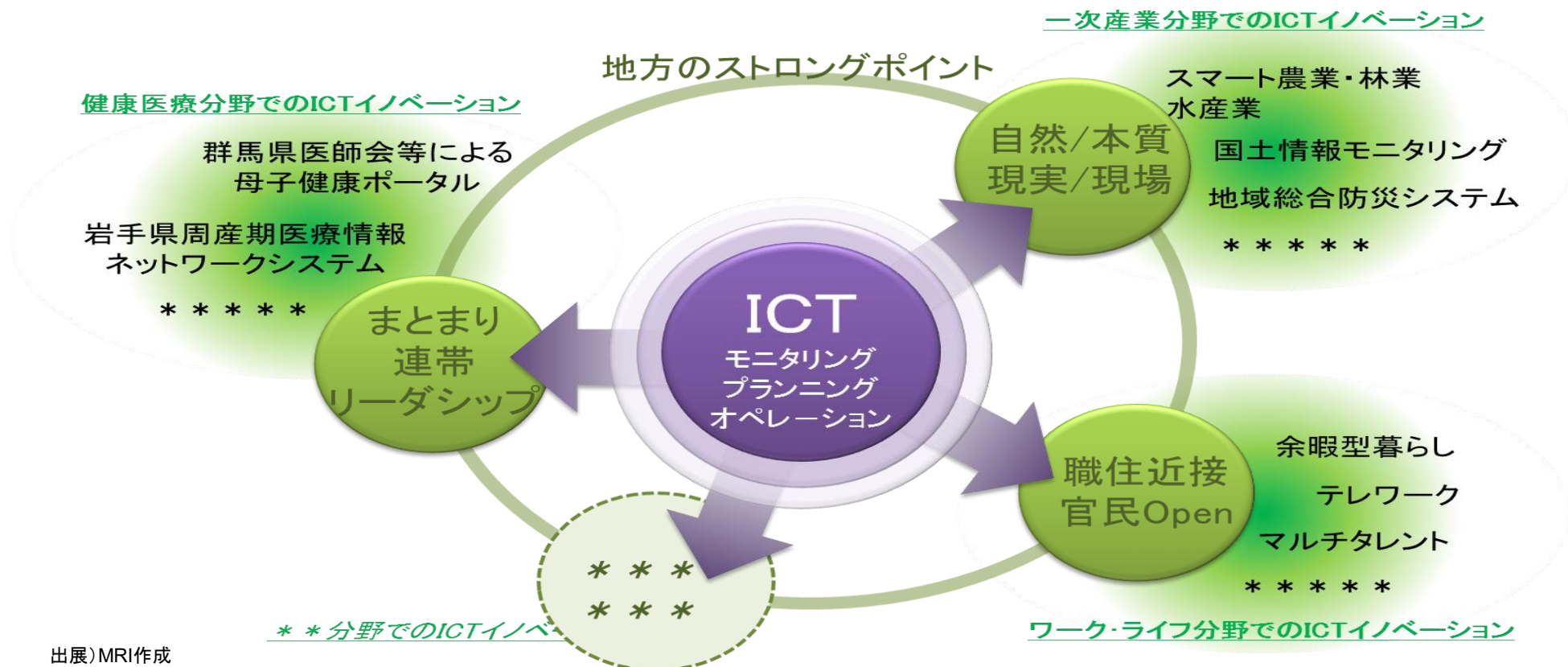
株式会社三菱総合研究所

顧問

中村 秀治

# 1. 地域はAI・ロボット活用が必須

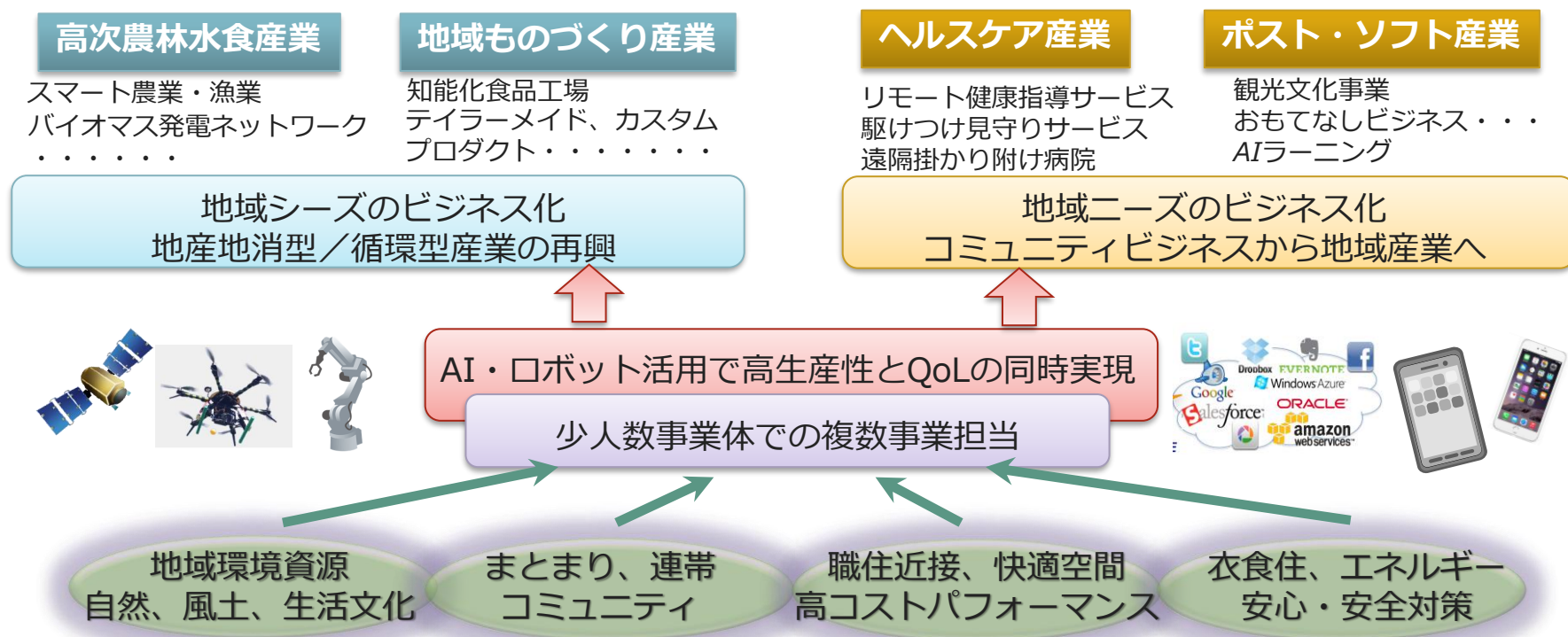
- 遠い、人手が少ない、自然豊か、これらを超越し活用できるのがAI・ロボット
- AI・ロボットで最先端産業となる農業・林業・水産業／地域の基幹産業
- まとまりの良い地域単位で健康・医療・介護のAI・ロボット利活用が進展
- 地方と都会、どちらでも、仕事も、暮らしも可能とするICT／デジタルインフラ



## 2. 地域のさらなる生産性向上で起こるAIイノベーション

- 横通しの特性、マルチタレント等、地域にこそオープン・イノベーションの可能性がある
  - 自動運転やロボットは地方でこそ運用ノウハウが練成される
  - 言語の違いを超え、世界のどこかに参照解を見つけられる、貢献できる
  - 地域固有の価値にウラウチされたカスタムプロダクトが新世代流通に載る
- 広くて快適、自然共生型で高品質、安心生活に十分なユーティリティが得られる時代に

地方から起こるAIイノベーションの構造



## 参考：地域情報プラットフォーム（APPLIC）の拡張というアプローチ

- ◆ 個人や行政情報のユーザー企業（金融、医療、流通等）を交えた接続標準検討WG、プライバシーアセスメントWGを立ち上げ、地域行政プラットフォームとの連携を検討する。
- ◆ 検討結果を、情報提供ネットワークへの「接続標準技術ガイドライン」、「民間接続PIAガイドライン」として取りまとめるほか、プライバシーに関する住民からの相談窓口となるなど、地域で必要とされる役割を担う。

